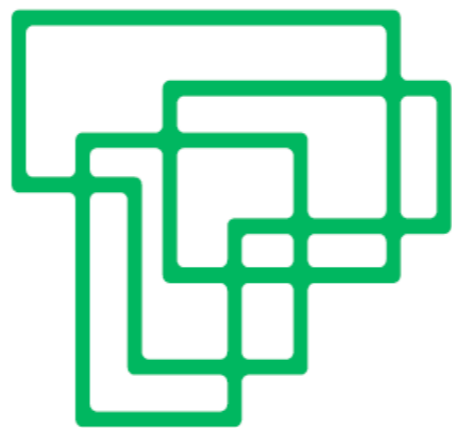




Environment
Energy
Economy
TSUKUBA



つくばスタイル



ワークショップのフレーム説明

低炭素で安全・安心なエコシティー
のコンセプトと
産学官民のパートナーシップ

第1回つくば3Eフォーラム会議以降の経緯

1) 2007年12月16日 つくば3E宣言2007

「あえて、つくば市のCO2排出を2030年までに50%削減」

2) タスクフォース（燃料電池・太陽電池、バイオマスエネルギー、都市システム）の設置、技術とシステムの議論

3) 2月 つくば市が環境モデル都市への立候補を表明

4) 2, 3月 アドホック委員会による立候補案の検討

5) 4月 つくば市環境都市推進委員会の設置、立候補最終案の作成

6) 5月15日 つくば市環境都市推進懇話会の設置

7) 5月21日 つくば市環境モデル都市立候補

タスクフォース参加機関

燃料電池・太陽電池

(独) 産業技術総合研究所

(独) 物質・材料研究

(財) 応用光学研究所

筑波大学

都市システム

(独) 産業技術総合研究所

(独) 国立環境研究所

(独) 建築研究所

国土交通省国土技術政策総合研究所

NTT 環境エネルギー研究所

NTT アクセスサービスシステム研究所

都市再生機構 茨城地域支社

茨城県

つくば市

筑波大学

バイオマスエネルギー

(独) 産業技術総合研究所

(独) 土木研究所

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構

つくば市

筑波大学

関連する国内の動向

3-6月 G8北海道洞爺湖サミット関連会合の開催

気候変動・クリーンエネルギー及び持続可能な開発に関する閣僚級対話（3月14～16日）（千葉）、G8開発大臣会合（4月5～6日）（東京）、労働大臣会合（5月11～13日）（新潟）、環境大臣会合（5月24～26日）（神戸）、TICAD IV（第4回アフリカ開発会議）（5月28～30日）（横浜）、司法・内務大臣会議（6月11～13日）（東京）、財務大臣会合（6月13日～14日）（大阪）、科学技術大臣会合（6月15日）（沖縄）、外務大臣会合（6月26日～27日）（京都）

6月？ 環境モデル都市の発表

7月7-9日 G8北海道洞爺湖サミット



つくばへの期待 総合科学会議 相澤益男議員 基調講演より

温室効果ガスの排出を大幅に削減するためには、**・ ・ 短中期的には従来技術の向上と社会への普及が、中長期的には革新的な技術の開発が重要な鍵となる。**

短中期的対策（2030年頃まで）**・ ・ 短中期に温室効果ガスの排出削減が期待できる既存技術の普及と併せて、更なる効率向上、コスト低減、性能評価のための技術開発を進める。**

中長期的対策（2030年以降）**・ ・ 大きな温室効果ガスの排出削減が期待される技術や、・ ・ 社会構造を大きく転換してエネルギー需要を大幅に削減し、排出を抜本的に削減する技術について、戦略的に研究開発に取り組む。**

開発された革新的な技術を導入し、普及させるためには**様々なステークホルダーの連携が必要不可欠**である。「つくば3Eフォーラム」では、すでに昨年12月に「つくば3E宣言2007」を採択し、茨城県、つくば市、筑波研究学園都市の研究機関、団体、産業界及び市民が連携して、低炭素社会の実現に向けた様々な取組みを行っている。**是非、この取組が成功し、つくば市が低炭素都市のモデルになり、成果を世界に向けて発信することを期待する。**

個別ワークショップ

アーティクル 1. バイオマスタウンつくばの構築にむけて

アーティクル 2. 省エネで人にやさしい交通システム

アーティクル 3. 低炭素社会にむけての教育・文化・健康

アーティクル 4. 低炭素社会にむけた新エネルギー技術の

活用と展望

アーティクル 5. 物質の循環利用のシステム・技術

アーティクル 6. つくば系・低炭素社会のライフスタイル

を求めて

ワークショップの位置づけ

- 1) 新エネルギー技術、バイオマス利活用の可能性、リサイクル、リユースなど地域における物質の循環、省エネ交通システムについて、つくば市をフィールドとする実証実験など、アクションプラン策定のための課題抽出、短・中・長期計画を議論（**科学技術の具体的展開の検討**）
- 2) 低炭素社会の実現に向けた、環境意識の醸成やライフスタイル、価値観の変革、市民のあるべき姿や理念を議論（**人文科学、社会科学的側面からの検討**）
- 3) 20年後、30年後の未来のつくば市の姿について、ライフスタイル、教育、文化、健康、国際化などの視点（**つくばの特色を生かした未来像の検討**）

ワークショップの論点

- 1) つくば市の現状、特色と潜在力を把握した上で議論
- 2) 都市と田園の共生の視点
- 3) ライフサイクルアセスメント(LCA)の視点
- 4) 統合的視点 (システム化の視点)
- 5) 俯瞰的視点 (モニタリング、評価、QOL・市民生活からのフィードバック)
- 6) 土地利用については、森林と里山の保全を考慮、地産地消を視野
- 7) 未来に軸足をおいた都市づくり
- 8) 低炭素社会の理念の構築 (ライフスタイル、環境意識、国際性など)
- 9) 産学官民、世代間の連携、パートナーシップの推進・強化
- 10) 国内外の地域、世界の環境都市との連携、ネットワークの構築
- 11) 世界に展開できる汎用性 (つくばモデルとして波及)